

在セネガル日本国大使館月報

2026年7月

主な出来事

セネガル

(内政)

- 17日、サル前大統領がセネガルを訪問。この訪問を受けて、セネガルが公式に同前大統領の国連事務総長選挙立候補を支持する立場を明確にした。
- 25日、ファイ大統領は新党「キーライ」を結成。437の団体や組織が統合された。11月には党大会が実施予定。
- 26日、ファイ大統領はトゥーバを訪問し、総カリフへの表敬訪問を行った。

(外政)

- 19日、シエラレオネで第69回ECOWAS首脳会談が開催され、ECOWAS議長にファイ大統領、ECOWAS委員会委員長にジョップ元国防大臣が就任。

(経済)

- 14日、経済・財政・計画省は、2019年から2024年の間に公的債務が11兆2,190億 FCFA(対GDP比81.8%)から25兆5,830億 FCFA(同128.6%)へと急増した旨発表。

カーボベルデ

- 17日、新政権の政府綱領が賛成多数で可決。ヴィエイラ・デ・カルヴァーリョ首相による任期5年の新政府が始動。

ガンビア

- 16日、セネガル国境付近のブロック(Bullock)ガンビア国境軍キャンプでセネガル軍がフェンスを破壊する事案が発生。ガンビア政府は公式声明で深い懸念を表明。セネガル政府はガンビア政府の声明を留意する旨の声明を発した。
- 30日、外務・国際協力・在外ガンビア人省は、28日の令和8年熊本地震を受け、哀悼と連帯の意を表す声明を発出。

ギニアビサウ

- 10日、ペレイラPAIGC党首が再拘束された。
- 23日、ペレイラPAIGC党首が人道的な理由により釈放され、ポルトガルに移送された。

セネガル

(出典は Le Soleil 紙、RFI、大統領府 HP、セネガル外務省 HP、APS、Jeune Afrique、ロイター、Sika Finance。)

(内政)

内政一般

- 2日、ファイ大統領はセネガルの各地域行政機関の首長らとの会合を主催。

- 3日、ジョマイ大統領連合は政党を結成する意向を表明。
- 4日、PASTEF党本部に会員証の取得を希望する支持者が殺到。
- 7日、ファイ大統領は、6月29日に可決された憲法改正案について、憲法評議会に違憲審査請求した。
- 7日、ジャンテ公務員・労働・公共サービス改革大臣は、ゼネラルストライキ予告を受け、政府と労働組合FSDTとの意見交換会を主催。
- 8日、ソンコ国民議会議長は、元閣僚たちを自身の議長室の人事に再登用。
- 9日、憲法評議会は同憲法改正案を違憲判決。
- 10日、労働組合連合が呼びかけたゼネラルストライキが実施された。
- 17日、サル前大統領がセネガルを訪問。この訪問を受けて、セネガルが公式に同前大統領の国連事務総長選挙立候補を支持する立場を明確にした。
- 25日、ファイ大統領は新党「キーライ」を結成。437の団体や組織が統合された。11月には党大会が実施予定。
- 26日、ファイ大統領はトゥーバを訪問し、総カリフへの表敬訪問を行った。

(外政)

二国間・多国間関係

- 3日、ニャン外相はカーボベルデのプライアにてネーヴェシュ・カーボベルデ大統領と面会。
- 6日、ファイ大統領は アール・ナヒヤーン・アラブ首長国連邦アフリカ担当国務大臣と会談。
- 8日、ファイ大統領はアル・ドサリ・アフリカ経済開発銀行(BADEA)理事長と面会。
- 9日、ファイ大統領は、スペインのアフリカ向け日用品輸出企業COTRAPA社長と面会。
- 7日から9日にかけて、アフリカ社会連帯経済フォーラム(FORAESSダカール2026)が開催された。
- 7日から12日にかけて、カメルーンで開催された第51回フランコフォニー議会(APF)総会に、ンジャイ国民議会第一副議長が参加。
- 19日、シエラレオネで第69回ECOWAS首脳会談が開催され、ECOWAS議長にファイ大統領、ECOWAS委員会委員長にジョップ元国防大臣が就任。
- 25日から27日、ニャン外相がアルジェリアに外遊を行った。
- 28日、ファイ大統領が ECOWAS 議長就任後初の外遊先としてマリを訪問。
- 28日から29日、ニャン外相はアディスアベバで開催された第49回AU閣僚執行政事会に出席。
- 30日、次期国連事務総長選挙の第一回非公式投票が安保理(15か国)で開催され、サル前大統領は支持6、不支持7、意見なし2という投票結果となった。
- 31日、モーリタニア外相がセネガルを訪問。

(経済)

経済一般

- 3日、ファイ大統領はIMFアフリカ局長と会談を実施。同局長は財政健全化と透明性の確保に向けたセネガルの取り組みを評価。
- 6日および7日にスイスで開催された「AIガバナンスに関するグローバル・ダイアログ」に、ジュフ通信・

デジタル大臣が参加。

- 7日から9日にかけて、アフリカ社会連帯経済フォーラム（FORAESS ダカール2026）が開催。
- 8日、国産米の販路拡大のため、政府は米の食品輸入申告書の発行を1か月間停止することを決定。
- 14日、経済・財政・計画省は、2019年から2024年の間に公的債務が11兆2,190億 FCFA（対GDP比81.8%）から25兆5,830億 FCFA（同128.6%）へと急増した旨発表。
- 23日から25日にかけて、「アフリカ石油・ガスEXPO2026」がダカールで開催。
- 28日、セネガル政府はドイツのGAUFF社と提携し、1億2,000万ユーロを投じて農村の電化を進めるプロジェクトを発表。

（社会）

- 31日から8月1日にかけて、憲兵隊はファティック地方から不法出国を図った173人（セネガル人）を摘発し逮捕。

（文化・スポーツ）

- 25日、ファイ大統領は、2026年ダカール・ユースオリンピックに向け改修・拡張されたイバ・マル・ジョップ・スタジアム及びオリンピック・プールを公式視察。

カーボベルデ

（出典は Balai, O Democrata, Expresso das ilhas、カーボベルデ政府 HP、A Nação、Voz do archipelago。）

- 3日、ヴィエイラ・デ・カルヴァーリョ首相は新政府の政府綱領と信任動議をアルマダ国民議会議長に提出。
- 6日、ディアシュ国民議会議員は9月6日に予定されているMpD党首選への立候補辞退及びヴェイガ党員への支持を表明。
- 9日、ヴィエイラ・デ・カルヴァーリョ首相が就任後初の外遊としてポルトガルを訪問、モンテネグロ首相と会談。同日、両国外相も会談を実施。
- 14日、検察当局は、ヴィエイラ・デ・カルヴァーリョ首相（元プライア市長）及び元同市議会議員3人に対し、2020年から24年の市政運営に関わる刑事犯罪で正式起訴。
- 17日、新政権の政府綱領が賛成多数で可決。ヴィエイラ・デ・カルヴァーリョ首相による任期5年の新政府が始動。
- 21日から23日、セグーロ・ポルトガル大統領がカーボベルデを訪問、ネーヴェシュ大統領及びヴィエイラ・デ・カルヴァーリョ首相と会談したほか、国民議会の特別式典や「国連海洋科学の10年」会議に出席。
- 18日から24日、IMF調査団がカーボベルデを訪問、ヴィエイラ・デ・カルヴァーリョ首相兼財務大臣及び複数閣僚と協議。
- 20日、プライア市で中国・ポルトガル語諸国経済商業協力フォーラムの常設事務局を紹介するイベントが開催。
- 20日から22日、プライア市で国連薬物犯罪事務所（UNODC）主催のアフリカ地域麻薬密輸検査フォ

ーラムが開催。

- 29日、ネーヴェシュ大統領が大統領選挙の投票日を11月15日(決選投票11月29日)に公式に決定する大統領令を発出。
- 29日、ヴィエイラ・デ・カルヴァーリョ首相は1,038億8,800万エスクード(約1,552億円)を支出規模とする補正予算案を公表。
- 30日、補正予算案が賛成多数で可決。
- 31日、ヴィエイラ・デ・カルヴァーリョ首相は国情演説を行った。経済・社会分野における困難、若者の国外移住、憂慮すべき財政状況を指摘。

ガンビア

(出典は The Point。)

- 9日から15日、バロウ大統領はサウジアラビアを訪問、サレー・イスラム協力機構(OIC)事務局長補佐(人道問題担当)率いる代表团と会談。
- 16日、セネガル国境付近のブロック(Bullock)ガンビア国境軍キャンプでセネガル軍がフェンスを破壊する事案が発生。ガンビア政府は公式声明で深い懸念を表明。セネガル政府はガンビア政府の声明を留意する旨の声明を発した。
- 17日、サル前セネガル大統領がガンビアを訪問、バロウ大統領と会談。バロウ大統領は同元セネガル大統領の国連事務総長への立候補を支持。
- 18日、ニエ外務・国際協力・在外ガンビア人大臣は、ベナンで開催されたアフリカ大西洋沿岸国プロセス(AASP)閣僚会議に出席。
- 18日、6月末にガンビアを出発しスペイン・カナリア諸島を目指していた移民ボートがモーリタニア沖で難破し、38人が救助された。140人以上が行方不明となり、ガンビア政府は哀悼の意を表明。
- 18日から20日、バロウ大統領はシエラレオネを訪問、ビオ大統領と会談し新コンベンションセンターの落成式に出席したほか、西アフリカ諸国経済共同体(ECOWAS)中間サミットに出席し地域秩序や経済統合について協議。
- 18日から25日、大統領選挙に向けてコモンウェルス選挙事前評価団が訪問。
- 23日、ニエ外務・国際協力・在外ガンビア人大臣は、バロウ大統領の特使としてセネガルを訪問、ファイ・セネガル大統領及びニャン・セネガル外務大臣を表敬。
- 22日、バロウ大統領は「コモンウェルス・ラティマー・ハウス原則に関する三権会議」の開会式で演説し、法の支配、三権分立、司法の独立及び行政の説明責任の重要性を強調。
- 23日、国際投資紛争解決センター(ICSID)において、総額3,320万米ドル(約20億ダラシ以上)に上る国際法的紛争の無効申立手続に関し、同センターがガンビア政府側の主張を全面的に支持し、先の内裁定を取り消し、ガンビア政府が勝訴。
- 29日、セネガル・ガンビアは、両国間の国境画定合意に達した。8月15日から国境の再確認および監視体制の強化に向けた共同活動を再開する。
- 30日、外務・国際協力・在外ガンビア人省は、28日の令和8年熊本地震を受け、哀悼と連帯の意を表す声明を発出。
- 30日から8月2日にかけて、ガボン大統領がガンビアを訪問。

- 30日、12月5日予定の大統領選挙に向け、野党GDCが与党NPP主導の連合に参入表明。

ギニアビサウ

(出典はギニアビサウ外務省 HP、ECOWAS HP、Jeune Afrique、Radio Capital FM、O Democrataほか。)

- 4日、ギニアビサウでMpoxの初感染例が確認された。
- 6日、暫定政権は、軍部が起案した憲法草案の国民投票を8月30日に実施することを発表。
- 10日、ペレイラPAIGC党首が再拘束された。
- 13日、エンバロ元大統領はサル前セネガル大統領の国連事務総長選挙に対する支持を公に表明した。
- 16日、ジャウ・ギニアビサウ外務・国際協力・コミュニティ担当大臣はモスクワを訪問しラブロフ・ロシア外相と会談。農業・漁業・ブルーエコノミー分野を中心とした二国間協力強化が確認された。
- 23日、ペレイラPAIGC党首が人道的な理由により釈放され、ポルトガルに移送された。
- 28日、財務省は2027年国家予算案の策定要領を公表。

(注) 本月報は、セネガル、カーボベルデ、ガンビア、ギニアビサウの「報道」を当館限りでまとめたもの。

(了)